

今朝はことのほか寒く、星がことのほか、よく見えましたよ。戸外に架けてある温度計は、丁度零℃を指していました。私のラジオ体操も、真夏に子供たちの中に入ってやってから、もう半年近く外でやっています。その前は、定年になってからずっと、屋内でTV体操をやっていたから、我ながら良く続いていると思います。やはり、朝の体操は暖房の利いた屋内でやってはいけません。已むを得ない事情がない限り、どんなに寒くても外気に触れて、空を見上げながらやるべきだと思いますね。

### 天界に 我が生想う 冬の朝

冬の朝の6時半はまだ暗いですね。街灯の明かりを頼りに、星空を見上げつつ、遠い山の稜線に向かって、胸のポケットから聞こえてくるラジオの音声に合わせて一人体操をする。この世にただ一人で生きているような、あるいは、あの世に逝ってしまったような、不思議な気持ちになりますね……。寂しいというより心地よい孤独感とでも言うべきでしょうか。

ラジオ体操第一は、ゆっくりと正確に。第二体操の方は、大きく力強くやるように心がけています。自分が現在は、健康な体でいることの確認であり、健康の喜びの表現でもあると思います。わずか10分の体操時間の間に、西の空にあった月は山の稜線にかかり、空は薄明るくなって、星が消えていくのです。

イチゴ栽培も今年で三年目に入りました。幅5mで長さ30mのビニールハウスで、大した規模でもないのに、一年中作業に追われ、ハウス管理に追われているようにも思います。春から夏には、暑さ対策や病害、秋には台風対策と苗の植え付け、それが過ぎると寒さとミツバチ対策です。儲かっているわけでも、生活が懸かっているわけでもないのに、何の因果でこんなしんどいことを…と思うこともあります。



それでも止めないでやっているのは、つらいばかりでなく、いろんな喜びがあるからですね。それは、神戸から帰省した幼い孫娘が「ジイジのイチゴおいしいよ」と言ってくれるのも嬉しいことですし、この時期は収穫し、収益を上げるという喜びも大きいですよ。今年は苗などの設備投資を思い切ってやった分だけ、昨年までとは比較にならない収入になっています。元手をかけなければ、いい物を作ることが出来ないというのは、どこの世界でも共通かもしれません。収入を上げることで、世の中で役割を演じていることを確認し、自分の存在価値を感じる、という喜びもありますね。



母が年明けから気にしているので、イチゴ作業の合間に、野菜に寒肥をやりました。秋に植えたソラマメとサラダ豆(コラム26:生のいとなみ 参照)の種から新芽が伸びてきたのです。苗と苗の間の土を掘り、野菜有機と牛糞をたっぷりやって土をかけておく、という作業です。ツルが上に伸びてくるサラダ豆には、支柱を立てて、「うろう」と言われる、藁の束をつるしました。

母も今年の3月で87歳、父という「つれあい」を亡くして2年になります。脚が少し弱っているので、畑仕事を長くやるのは無理のようです。、後で疲れも出るようですが、野菜づくりに関しては手を抜きません。根っからの農業人、百姓気質なのでしょうね。

前回の「コラム28:野鳥の話」で登場した、ジョウビタキの「モンちゃん」について報告します。あれから約二か月、彼は元気でやっていますが、以前とは変わりましたね。まず鏡を見つめる姿を見なくなりましたし、「ピッピッ」という鳴き声も聞かなくなりました。そして、私の家の庭で見かけることが、とても少なくなりました。彼がよく居た梅の木には、スズメの群れが沢山止まっていることが多く、多分縄張りを奪われてしまったのでしょう。

### 大寒や 梅の蕾に 鳥一羽

それでも、早朝や夕方に、まるで私を待っていたかのように、時折姿を見せてくれます。先日、暦の上では大寒の日の夕方、冷たい冬の雨の降る中、いつもの梅の木に止まっている彼と出会いました。私がデジカメを取りに行き、近くに寄って撮るまで、彼はじっと待っていてくれました。



「近頃、よう思うんじゃが、ええがに出来たイチゴは、ほんまにきれいじゃのう。赤いダイヤというだけのことはあるわい」